

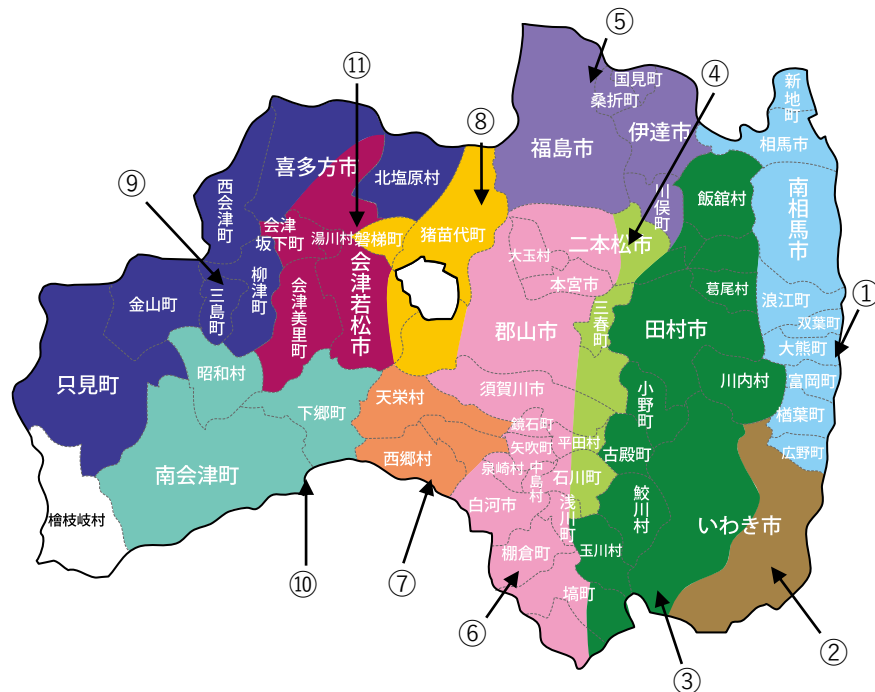
01 福島県産米の基礎情報

● 目次

P2-3	1-1	福島県の生産構造
P4	1-2	ほ場整備の状況
P5	1-3	気象条件・栽培条件
P6	1-4	品種別作付割合
P7	1-5	10a当たり収量、作況指数、1等米比率
P8	1-6	認証GAP取得農場数・日本穀物検定協会 食味ランキング
P9	1-7	県オリジナル米（天のつぶ）
P10	1-8	県オリジナル米（里山のつぶ）
P11	1-9	県オリジナル米（福、笑い）
P12	1-10	多様な米

1-1 福島県の生産構造

- 福島県は、東北地方の最南端に位置し、県土面積は1万3,784km²で北海道、岩手県に次いで全国3位の広さです。その中でそれぞれの地域の自然条件を生かして様々な農産物が生産されています。
- 福島県の令和3年の農業の生産額(農業産出額)は、1,913億円です。うち米は574億円、県全体の約3割を占めており、**全国7位**となっています。なお、主食用米の作付面積は令和4年産で**51,900ha**です。また、農業経営体数は3万9,600経営体で**全国2位**となっています。



○ 水稲の品種別産地

福島県の各地域で作付けされる米の品種は次のとおりです。

No.	産地区分	標高 (m)	主な品種											
			主食用米						酒造好適米					
			まいひめ	あきたこまち	里山のつぶ	ひとめぼれ	チヨニシキ	天のつぶ (早)	コシヒカリ	福、笑い (早)	五百乃石	夢の香	福乃香 (早)	
①	浜通り中北部	300以下				○	○	○	○	○				○
②	浜通り南部	300以下				○			○	○				○
③	阿武隈山間	400-600	○	○	○	○	○							
④	阿武隈山沿	400-600		○	○	○	○							
⑤	中通り北部平野	300以下			○			○	○	○				○
⑥	中通り中南部	400以下		○			○	○	○	○				
⑦	中央山脈山沿	500以下		○			○	○						
⑧	猪苗代湖岸	400-700	○	○	○	○	○						○	
⑨	会津山沿	500以下							○	○				○
⑩	会津山間	400-700	○	○	○									○
⑪	会津平野	300以下					○		○	○				○

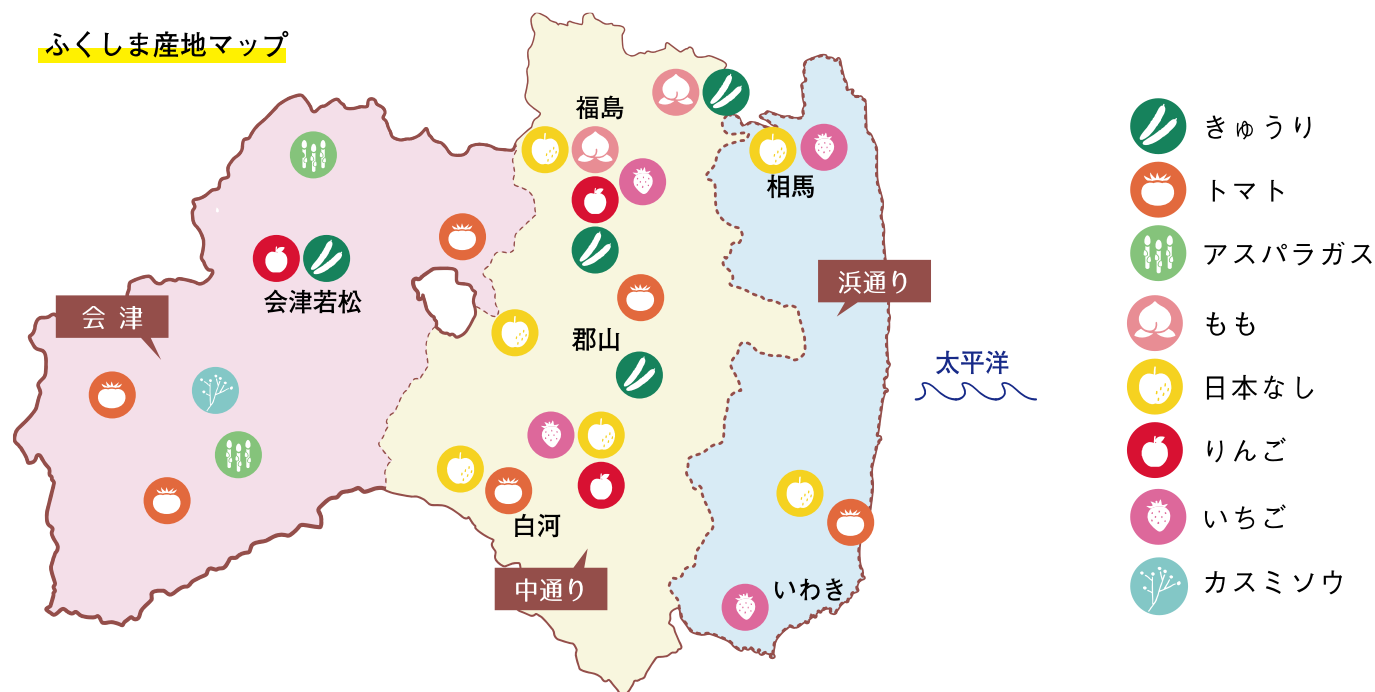
出穂時期



※「天のつぶ」・「福、笑い」・「福乃香」は300m以下で作付け

1-1 福島県の生産構造

- 福島県の農業産出額は1,913億円(R3)となっています。米は574億円で、本県農業の基幹となる品目で、その他は畜産(475億円)、野菜(431億円)、果実(297億円)、花き(78億円)となっており、気候、風土を活かしながら県内各地で特色ある農業をキュウリやトマトなどの野菜やモモやナシ、リンゴなどの果物をはじめ、全国的に生産量の多い農作物がたくさんあります。それらの産地については次のとおりです。

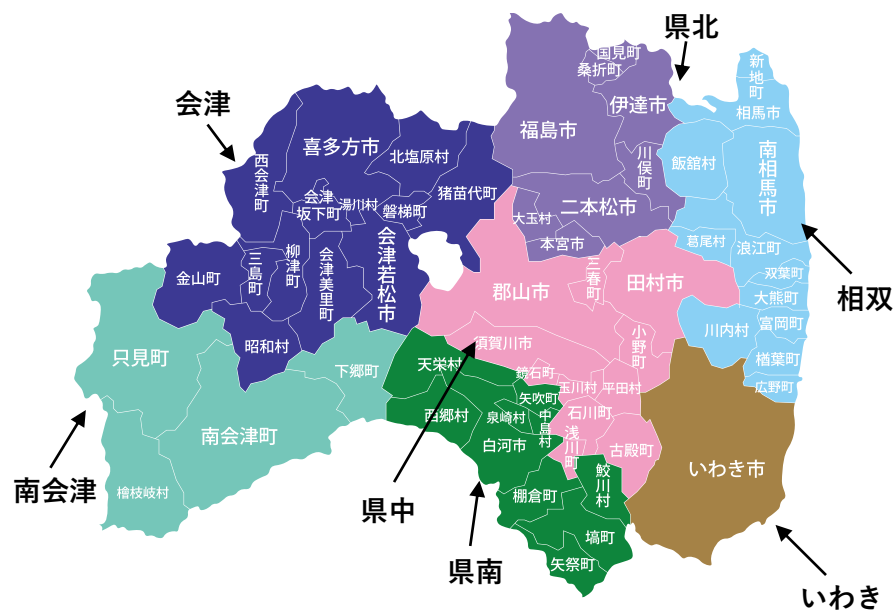


1-2 ほ場整備の状況

- 県内では農地の区画を整備するほ場整備事業が進められており、ほ場を大区画化することで、大型農業機械が導入できるようになります。また、農地集積を進めることで労働時間が大幅に削減され、その分生育管理により多くの労力を割くことができるようになります。
- ほ場整備率は県内で7割を超えており、特に会津地方では97%と高くなっています。

● 令和3年度までの地方別整備面積・整備率

地方	水田		
	対象面積 (ha)	整備済面積 (ha)	整備率 (%)
県北	12,126	8,047.9	66.4
県中	24,620	15,653.2	63.6
県南	10,994	8,166.2	74.3
会津	24,452	23,718.5	97.0
南会津	2,760	2,114.5	76.6
相双	16,309	10,598.0	65.0
いわき	4,898	2,657.1	54.2
県全体	96,159	70,955.4	73.8



注) ・対象面積は平成30年の農振農用地面積(水田)
 ・東日本大震災に伴う津波被災分を考慮している

1-3 気象条件・栽培条件

- 福島県は奥羽山脈と阿武隈高地の2つの山系により、太平洋側の特性を持ち、一年を通じて穏やかな気候の「浜通り」、太平洋側に近い気候の「中通り」、日本海側の特性を持ち、積雪の多い「会津」の3つの気候に分けられます。
- 8月～9月は稲の籾が肥大していく時期（登熟期）であり、この時期に気温の昼夜較差が大きいと夜間のデンプンの消耗が少なく、米粒の充実が良くなるため、収量や品質に良いとされています。県内主要都市と全国県庁所在地における登熟期（8月～9月）の気温の昼夜較差（過去5か年平均）を比較した結果、会津若松市が最も大きく、9.8℃あります。
(気象庁 過去の気象データより)

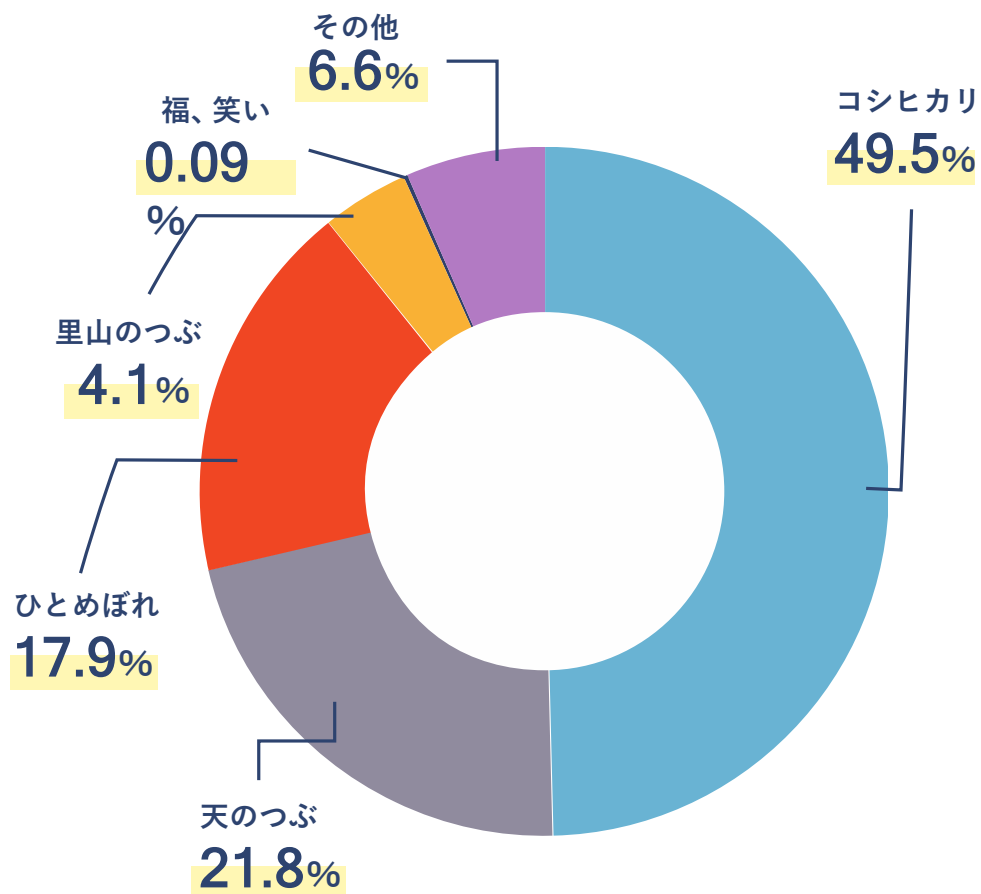
● 主要米産地の気温日較差と比較

会津若松市	9.8℃
福島市	8.4℃
青森市	8.4℃
秋田市	8.0℃
盛岡市	8.7℃
山形市	9.4℃
仙台市	7.0℃
新潟市	7.5℃
全国平均	7.7℃

1-4 品種別作付割合

- 令和4年産米の品種別作付割合（うるち）は、「コシヒカリ」49.5%、「天のつぶ」21.8%、「ひとめぼれ」17.9%、「里山のつぶ」4.1%の順となっています。
- 県オリジナル品種「天のつぶ」、「里山のつぶ」の割合は合計で25.9%となり前年より0.3%増え、年々作付面積が増加しています。
- トップブランド米として位置づける「福、笑い」の作付けが令和2年から始まり令和3年産から本格的な生産が行われています。

【品種別割合の円グラフ】
(令和4年作付用種子配布数量より推計)



1-5 10aあたり収量、作況指数、1等米比率



10aあたり収量 全国 **7** 位



福島県の令和4年産米の10aあたり収量は**549kg**で**全国7位**となっています。（農林水産省作況調査より）

また、同じ地域内の例年の収穫量を100としたときに、その年産のお米の作柄を示す指標である作況指数は平成29年産米から令和4年産米にかけて100~102の範囲で推移しており、全国平均では**作況指数が100を下回る年も福島県産米は安定的な生産ができており、高い品質の米を安定して市場に提供することにつながっています。**（農林水産省作況調査より）



作付面積・収穫量 全国 **7** 位（主食用米）



福島県は全国有数の米どころであり、平成22年の主食用米の作付面積**7万9,400ha**で**全国4位**でした。その後東日本大震災により浜通り地方での作付けが大きく減少しましたが、令和4年産では**5万1,900ha**まで回復し、**全国7位**となっています。

また、主食用米の収穫量についても平成22年産は**43万9,100t**で**全国4位**でしたが、東日本大震災により大きく減少しました。令和4年産の収穫量は**28万4,900t**まで回復し、**全国7位**となっています。（農林水産省作況調査より）

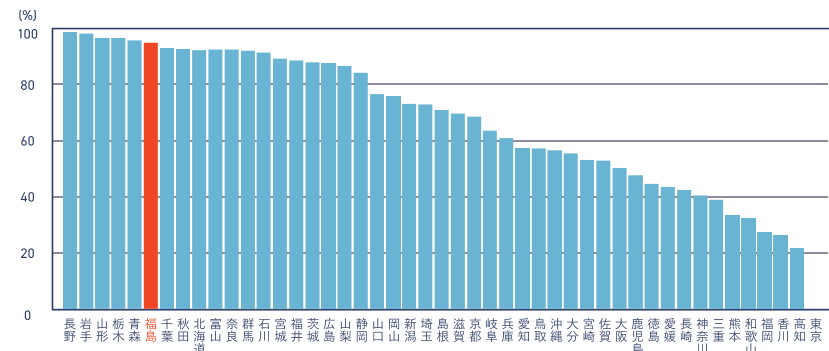


1等米比率 **92.1** % (5ヵ年平均)



全国的に登熟期の高温障害による品質低下（白未熟等）で1等米比率の低下が見られる中、福島県産米は平成29年産から令和3年産米の1等米比率の**5ヵ年平均が92.1%**（全国平均：**79.7%**）となっており、**毎年品質の良い米を消費者にお届けしています。**（農林水産省 農産物検査結果より）

【福島県産米と全国の1等米比率5ヵ年平均の結果】



1-6 認証GAP取得農場数・日本穀物検定協会 食味ランキング

米の認証GAP取得農場数 **198**農場

福島県はGAP日本一を目指して、安全と品質の太鼓判となる認証GAPの取得を進めています。

県内で「米」で認証GAPを取得している農場数：**198**農場
(令和4年3月末時点)

穀類でASIAGAP及びJGAPを取得している農場数は日本一
(134農場：日本GAP協会HP 令和4年3月末時点)

米を含む品目で認証取得している農場数は以下の通りです。

GLOBALG.A.P：**13**農場

ASIANGAP：**2**農場

JGAP：**131**農場

FGAP(ふくしま県GAP)：**94**農場

※複数の認証GAPを取得している農場があります。

特A獲得数 4年連続全国 **1**位

食味ランキングは一般財団法人食物検定協会が行う全国の代表的な産地品種について食味試験を行い、白飯の「外観・香り・味・粘り・硬さ・総合評価」の6項目で評価し、総合結果を発表するものです。

福島県産米は、平成29年産から令和2年産まで、最も評価の高い**特A**獲得数が4年連続で全国で最も多くなりました。

【日本穀物検定協会が発表した食味ランキング】

年産	コシヒカリ			ひとめぼれ			天のつぶ	里山のつぶ
	会津	中通り	浜通り	会津	中通り	浜通り	全県	全県
22	特A	A	A	特A	A	—	—	
23	特A	A	A	特A	A	—	—	
24	A	A	A	特A	A	A	—	
25	特A	A	A	特A	特A	A	A'	
26	特A	特A	A	特A	特A	—	A	
27	特A	特A	A	特A	A	—	A'	
28	特A	特A	特A	A	A	—	A	
29	特A	A	特A	特A	特A	—	A	(A')
30	特A	A	特A	特A	特A	—	A	(特A)
R元	特A	特A	特A	A	A	—	A'	—
R2	特A	特A	特A	特A	特A	—	A	—
R3	特A	A	A	A	特A	—	A'	—

● 食味ランキング評価

特A 基準米よりも(特に)良好なもの

A 基準米よりも良好なもの

A' 基準米とおおむね同等のもの

B 基準米よりもやや劣るもの

B' 基準米よりも劣るもの

1-7 県オリジナル米（天のつぶ）



●概要、品種特性

平成23年にデビューした県オリジナル品種であり、主に平坦部（標高300m以下）で作付けされています。

倒伏しにくく、収量性に優れた品種として開発されました。

ひとめぼれと比較し、以下のような特徴があります。

- ・ 稈長が短く、倒伏しにくい、穂いもちに対する抵抗性が強い
- ・ 収量はひとめぼれ並みで、コシヒカリより優る、白未熟粒の発生が少ない

●食味の特徴

粘りが少なく、一粒一粒がしっかりした食感です。粒感がしっかりした外硬内軟型で広い用途で活躍しますが、油や調味料のなじみが良く、特にチャーハンや丼ものに向きます。また、冷めてもおいしいため、お弁当にも向いています。

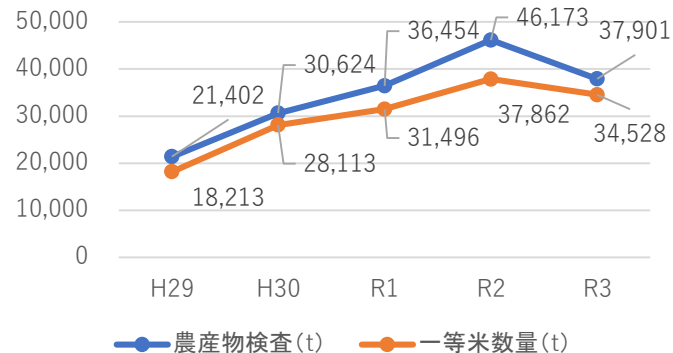
●県内の一般的な収穫時期

9月中旬～

●主な産地

県内全域の平坦地

●各年産農産物検査数量、1等米数量の推移



●千粒重の比較

天のつぶ	22.79g
コシヒカリ	21.99g
ひとめぼれ	22.19g

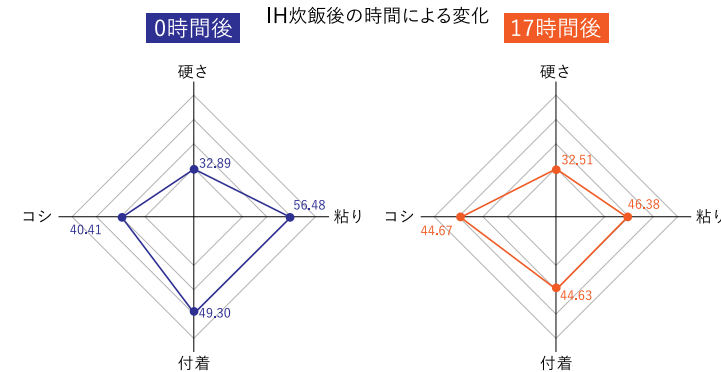
●食味チャート

福島県産炊飯測定

炊飯機器	白飯/IH
炊飯量/加水率	450g/90%
①米飯増加率(倍)	2.31
②米飯含水率(%)	62.7
③味度計(おねば)	83
④食味値(炊き上げ0H)	76
⑤食味値(炊き上げ17H)	72

(福島県調査より)

そしゃく測定値と評価



1-8 県オリジナル米（里山のつぶ）



●概要、品種特性

「里山のつぶ」は、平成29年にデビューした県オリジナル品種で、中山間向けの品種です。

以下のような特性があります。

- ・栽培適地は標高300m以上の中山間地域
- ・出穂期・成熟期は「あきたこまち」に比べ2日ほど遅い
- ・倒伏しにくく、いもち病や低温に強い
- ・収量は「あきたこまち」に優る
- ・米粒は大きく、白未熟粒の発生が少ない

●食味の特徴

粒感がしっかりした外硬内軟型で広い用途で活躍します。大粒で味が染みこみやすいため炊き込みご飯やリゾットなどの調理・加工する料理に向いています。

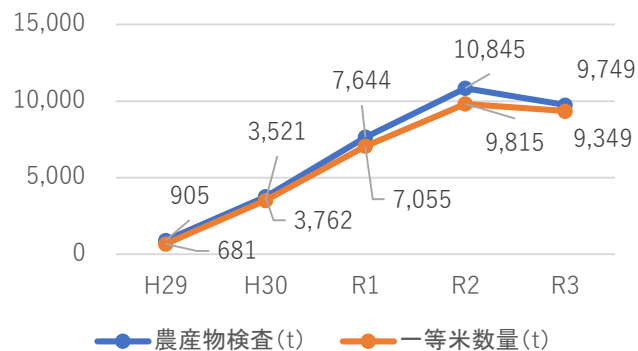
●県内の一般的な収穫時期

9月下旬～

●主な産地

会津山間部・中通り山間部

●各年産農産物検査数量、一等米数量の推移



●千粒重の比較

里山のつぶ	22.9g
コシヒカリ	21.9g
ひとめぼれ	22.1g

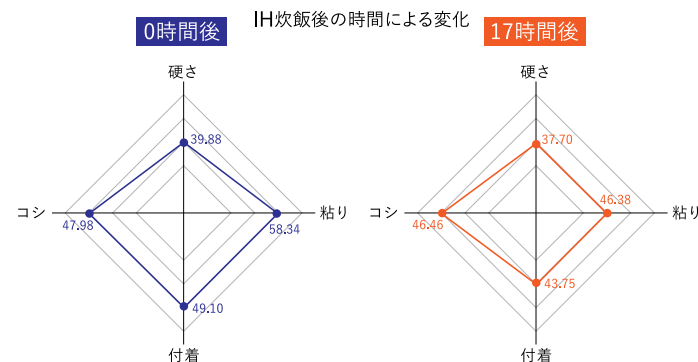
●食味チャート

福島県産炊飯測定

炊飯機器	白飯/IH
炊飯量/加水率	450g/90%
①米飯増加率(倍)	2.34
②米飯含水率(%)	60.3
③味度計(おねば)	79
④食味値(炊き上げ0H)	76
⑤食味値(炊き上げ17H)	72

(福島県調査より)

そしゃく測定値と評価



1-9 県オリジナル米（福、笑い）



●概要、品種特性

「福、笑い」は品質及び食味が優れる品種を目指し、福島県が14年の歳月をかけて開発し、令和2年に先行栽培、令和3年産米から一般栽培を開始しました。

品種特性は、コシヒカリと比較して以下のような特徴があります。

- ・収量、品質がやや優る、玄米千粒重が重い、白未熟粒の発生が少ない

●生産要件

「福、笑い」は福島県のトップブランドとしての位置付けであり、いくつかの生産要件が設定されており、高い品質を確保しています。

- ①生産者基準：認証GAPを取得した生産者で構成された認定・登録研究会
- ②調製基準：玄米の調製ふるい目 1.9mm以上
- ③食味品質基準：玄米タンパク質含有率 6.4%以下（水分15%換算）
- ④栽培マニュアルに沿った栽培（施肥の方法、平坦部（300m以下）での作付けなど）
- ⑤研修会等への参加
- ⑥種子、苗の譲渡や自家採種はしない

●食味の特徴

大粒で香りが高く、ふんわりと柔らかく炊き上がります。「コシヒカリ」以上に粘りがあり、もちりとした食感と甘みが特徴です。令和2年に先行販売された際の消費者アンケートでは、「かなり良い」が44%、「良い」が48%と高い評価が9割以上を占めています。

●県内の一般的な収穫時期

9月下旬～

●主な産地

県内平坦部（標高300m以下）

●千粒重の比較

福、笑い	23.4g
コシヒカリ	21.9g
ひとめぼれ	22.1g

●食味チャート（会津産）

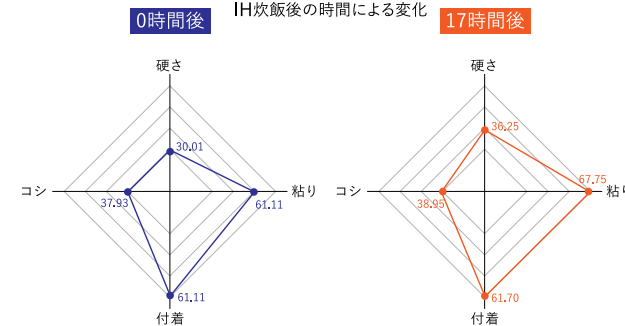
福島県産炊飯測定

炊飯機器	白飯/IH
炊飯量/加水率	450g/90%
①米飯増加率(倍)	2.35
②米飯含水率(%)	60.3
③味度計(おねば)	80
④食味値(炊き上げ0H)	79
⑤食味値(炊き上げ17H)	73

(福島県調査より)

そしゃく測定値と評価

IH炊飯後の時間による変化



1-10 多様な米

福島の酒9回連続金賞受賞数 **日本一**

福島県産米は主食用米だけでなく、酒米も作付けされており、オリジナル酒造好適米として2品種が開発されています。福島県の日本酒は9回連続で全国新酒鑑評会金賞受賞銘柄数日本一を達成しています。

福島県オリジナル酒造好適米

● 福乃香

- 「福乃香」は、高度精白を行う吟醸酒に適した酒造好適米として開発されました。心白の発現が良く、雑味の少ないすっきりとした酒質に仕上がります。
- 酒造適性試験では高級酒の原料として名高い「山田錦」に匹敵する吟醸香を得られることが示されました。高い技術水準の福島県の酒造りを更に盛り上げる品種として期待されています。

年間生産量 単位:t

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
福乃香	-	-	-	54	112	113

(農林水産省 農産物検査結果より)

● 夢の香

- 「夢の香」は福島県で初めて開発されたオリジナル酒造好適米で、平成12年に奨励品種に採用されました。
- 「夢の香」から造られる日本酒は、香りと味のバランスに優れた酒質に仕上がります。

年間生産量 単位:t

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
夢の香	910	1,013	961	1,022	986	900

(農林水産省 農産物検査結果より)

02 農作業と先進技術

● 目次

P15	2-1	生育ステージと主な作業の時期
P16	2-2	春作業 耕起・代かき
P17	2-3	春作業 育苗、田植え
P18	2-4	春作業 直播栽培
P19	2-5	夏作業 肥培管理
P20	2-6	夏作業 生育診断
P21	2-7	秋作業 収穫・乾燥・調製
P22	2-8	技術対策指導

2-1 生育ステージと主な作業の時期

ふくしまの米ができるまでの流れは以下のとおりです。

この他、オリジナル品種をはじめとする、品種ごと、地域ごとの栽培暦に基づき、各地域の気候にあった栽培が行われています。

月／旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
【生育ステージ】 (会津) コシヒカリ(中通り) (浜通り)				育苗期	移植期		分けつ期 (茎数の増加)			幼穂形成期 (穂ができる)	減数分裂期		出穂期 ■ 8/5頃 ■ 8/12頃 ■ 8/9頃	登熟期 (テンブンが蓄積)		成熟期 ■ 9/17頃 ■ 9/28頃 ■ 9/28頃						
【主な作業の時期】	播種			田植え			栽培管理				追肥	カメムシ防除			収穫・乾燥・調製							
				育苗管理		除草剤散布																



2-2 春作業 耕起・代かき

●作業の目的

水田を深く掘り起こし、土壌を細かく粉砕する作業を耕起といいます。また、耕起後にほ場に水を入れ、土をやわらかく、平らにする作業を代かきといいます。これらの作業により、ほ場を均平を整え、水持ちを良くし、雑草の発生を抑えるなどの効果があります。

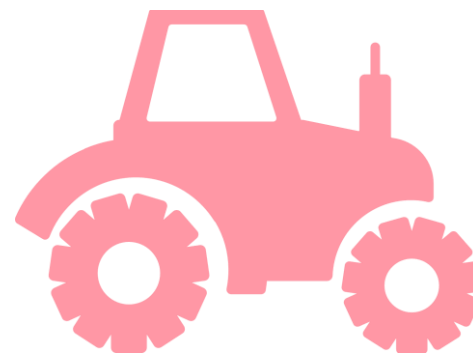
●県内の一般的な作業時期

4月上旬～5月上旬

●福島県内で導入されている技術

〈レーザーレベラー〉

レーザーレベラーはほ場外の送信機から発信される水平レーザーを、整地を行うトラクターが装着された受信機で受信し、均平板を常に一定の高さに維持し続けることにより精密な均平化を行うための装置です。一見平らな様に見えても、田面が均平でなければ、時間の経過とともに、部分的な沈下が起き易く、容易にほ場の均平は失われ、水深が不均一になり、初期生育にムラが生じる原因や、除草効果にバラツキが生じる原因になります。



2-3 春作業 育苗、田植え

●作業の目的

田植えの前に、あらかじめ苗を一定程度育てるのが育苗です。県内では育苗箱に土を入れ、ビニールハウスの中などで管理する箱育苗が多いです。また一部では、省力のため、パイプハウス内にビニール等を用いて簡易水槽(プール)を作り、水を入れたままの状態で行うプール育苗が行われています。生育が揃った苗を機械移植(田植え)することで、ほ場内における生育ムラの軽減につながります。また、殺菌・殺虫剤の育苗箱施薬や除草剤の散布装置を田植機に装着して田植えと同時に農薬散布方法もあり、これらによって、作業の効率化につながります。

●県内の一般的な作業時期

育苗：4月上旬～5月中旬 田植え：5月上旬～5月下旬

●福島県内で導入されている技術

〈直進アシスト田植機〉

田植え機に搭載されたGPSにより直進補助を行うことで、均一な植付密度を確保し、土壌から吸収する養分を均一化させることができ、その結果、品質が均一な米になります。

〈可変側条施肥田植機〉

田植機の前方向いたセンサーにより、土の養分を計測し、田植機後方から出る肥料の量を調節し、土の養分がほ場内で均一になるように、肥料をまくことができる田植機です。これにより、田植えと肥料散布を同時に行うことができ、また肥料ムラを解消することができるため、良質かつ均一な品質の米を作ることができます。



2-4 春作業 直播栽培

●作業の目的

県内では田植えだけでなく、種籾を直接ほ場にまく直播栽培も行われています。代かき後に行う湛水直播、耕起された畑地の土壌に播種する乾田直播があります。福島県で行われる直播栽培は、湛水直播が一般的です。一般的には田植機後部のアタッチメントを直播の機器に変えて直播を行います。直播栽培によって育苗や田植えに係る労力やコストを大幅に省くことができ、生産者の負担を軽減させることができます。

●県内の一般的な作業時期

4月下旬～5月上旬

●福島県内で導入されている技術

〈ドローンによる直播栽培〉

播種作業をドローンにより行うことで、直播作業にかかる時間をより少なくすることができます。実施するためには十分な操縦技術が必要なため、ドローンの講習を受けることが推奨されます。



〈無コーティング種子代かき同時直播〉

県内で試験的に導入されている技術です。トラクターに代かきのロータリーと直播用の播種機器をつけて、代かきの仕上げと播種作業を同時に行うものです。ドローンのように複数人での作業が不要で、また機械がトラクターへのアタッチメントの追加のみのため、大きな投資が不要となることが特徴です。

さらに、浅い土中に播種するため、鉄材等によるコーティングなしで播種することができます。



2-5 夏作業 肥培管理

●作業の目的

夏は天候に応じて適切な稲の生育量を確保するための管理作業が中心となります。具体的には水管理、肥料の追加散布、雑草や病害虫の被害を防ぐ薬剤散布や畦畔の草刈りなどです。

水管理は、稲の生育ステージや生産量によって、水田の水量を調節する作業です。重要な水管理の一つに「中干し」があり、本県では6月下旬～7月上旬頃に水を断つ時期があります。

中干しの主な効果は以下の3つです。

- ①穂を付けない無効分けつの抑制→充実した茎の確保
- ②根へ酸素を供給→根を健全に保つ
- ③水田の有害物質の発生を抑制→稲の養分吸収を助ける

この時期の追肥は、米の粒数を増やしたり、粒を大きくしたりと、収量を向上させることを目的としています。

●県内の一般的な作業時期

田植え～8月下旬

●福島県内で導入されている技術

〈無人ヘリ、ドローンによる防除〉

無人ヘリやドローンによる農薬散布も行われており、大幅に労力の削減ができます。その分、他の作業に時間を活用することができ、より丁寧な肥培管理が可能となります。

夏期は気温の高い時間を避け、朝夕の限られた時間を中心に作業を行うこととなりますが、雑草などの生長も著しい時期です。大規模農家などでは広大な農地を管理することになるため、効率的な作業が求められます。先進的な技術により作業効率を上げ、より丁寧な管理に努めています。



〈自動水管理システム〉

先進的な取組として、水管理を容易にする自動水管理システムが導入されているほ場があります。これは自動で給排水口を開閉するため、一つ一つのほ場を見回る労力が軽減されます。

2-6 夏作業 生育診断

- 県内の一般的な作業時期

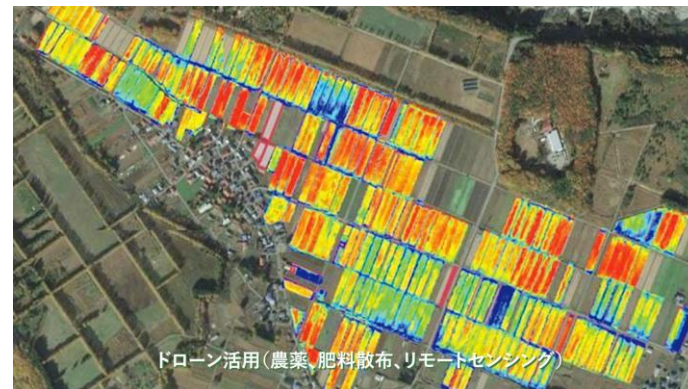
6月下旬～8月下旬

- 福島県内で導入されている技術

〈ドローンによる生育診断〉

ドローンにより上空から水田を撮影し、稲の生育を分析するリモートセンシングも取り入れられており、ほ場内の生育量を地図上に可視化して表すことができます。

このリモートセンシングの結果を受けて、水田一筆の中でも生育の旺盛なところと劣るところで、施肥量を変える可変追肥を行うことで、良食味かつ均一な米の品質確保につながります。



2-7 秋作業 収穫・乾燥・調製

●作業の目的

乾燥は、米の品質低下や腐敗を防止するなど保存性を向上させ、

また粳すりの際に米に傷をつきにくくする効果があります。

調製は一定の基準で同一品質に揃える作業を指し、粳すりや選別など粳を玄米までにする工程をいいます。

●県内の一般的な作業時期

収穫：9月中旬～10月中旬

乾燥・調製：9月中旬～10月下旬

●福島県内で導入されている技術(機器)

〈収量食味コンバイン〉

県内では、先進技術として収量食味コンバインが導入されています。このコンバインは稲刈りと同時に水田一筆の中で収穫地点ごとの収量と食味のデータを測定し、そのデータを、ほ場マップに表示することができます。これによって、翌年度以降の施肥設計等に役立てることができます。

〈カントリーエレベーター〉

乾燥調製作業を大規模に行い、粳のまま貯蔵できる施設がカントリーエレベーターです。複数の生産者の米を1カ所に集め、乾燥・調製・貯蔵を行うことで、生産者のコスト削減を図るとともに、同じ工程で一括処理をすることにより品質のバラツキを防ぎます。



2-8 技術対策指導

● 県内の取組

福島県では市町村、JA等と連携し、技術対策会議や現地指導会等を実施しています。

高品質・良食味なふくしまの米の生産を目指し、土づくり、育苗管理、肥培管理、病虫害防除、除草対策、水管理、適期刈取、乾燥・調製及び放射性物質の吸収抑制対策等について、関係者と指導内容の統一や稲作農家への指導を行っています。

令和4年度には12月までに県内で延べ282回の指導会・研修会を実施し、その中で農業機械メーカーを招いてのスマート農業講習会や食味に関する研修会を行いました。



03 安心安全の取組

● 目次

P25	3-1	放射性物質の吸収抑制対策・交差汚染防止
P26	3-2	放射性物質検査

3-1 放射性物質の吸収抑制対策・交差汚染防止

●放射性物質の吸収抑制対策

生産段階において、米に放射性物質を吸収させない対策を行っています。水田ほ場の適切な肥培管理により、土壌中の放射性セシウムが稲に吸収されるのを抑える対策です。福島県では、県・市町村・関係団体が連携して、土壌調査を行い、放射性物質吸収抑制対策を生産者とともに徹底し、安全対策を実施してきました。

具体的には、田植え前に土壌中の交換性カリ含量を25mg以上/乾土100gを目標とする肥培管理を行っています。

なお、肥培管理の技術として次の2点が有効です。

- ① 稲わらのすき込み
- ② 土の状況に応じた基肥時の塩化カリ肥料などの追加施用



●交差汚染防止対策

交差汚染防止対策とは、収穫後の農産物が、農機具等に付着している放射性物質によって汚染されないように行う作業です。震災後に初めて使用する粃摺機や選別機、計量機は、通常の清掃に加えて、粃や玄米を投入して一定時間運転する「とも洗い」を行うことを徹底しています。（とも洗い作業に使用した粃や玄米は廃棄処分しています。）

3-2 放射性物質検査

● 全量全袋検査

福島県では流通の過程で基準値超過米が市場に出回らないようにするため、「出口対策」として、平成24年産米より世界で初めての取組である「米の全量全袋検査」を県内全域で実施してきました。平成27年産米から基準値超過はなく、令和4年産米は以下の地域を除いてモニタリング検査に移行しています。

【令和4年産における全量全袋検査を実施している地域】

田村市、南相馬市、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村及び川俣町（旧山木屋村）

● モニタリング検査

令和2年産米から避難指示等のあった12市町村を除き全量全袋検査からモニタリング検査に移行しました。令和4年産米は新たに広野町と川内村が、モニタリング検査に移行しています。

モニタリングの検査は、旧市町村（昭和25年2月1日時点）ごとに3点の米を抽出検査しており、現在までの検査結果は以下のとおりです。

【モニタリング検査結果】（令和5年1月31日時点）

年産	検査点数合計	基準値 (100Bq/kg)以下	100Bq/kg超
令和2年産米	1,055	1,055	0
令和3年産米	1,055	1,055	0
令和4年産米	1,062	1,062	0

【全量全袋検査の結果】（令和5年1月31日時点）

年産	検査点数合計	基準値 (100Bq/kg)以下	100Bq/kg超
平成24年産米	10,323,674	10,323,603	71
平成25年産米	10,999,224	10,999,196	28
平成26年産米	11,013,045	11,013,043	2
平成27年産米	10,498,055	10,498,055	0
平成28年産米	10,265,590	10,265,590	0
平成29年産米	9,976,631	9,976,631	0
平成30年産米	9,251,025	9,251,025	0
令和元年産米	9,492,569	9,492,569	0
令和2年産米	320,344	320,344	0
令和3年産米	306,803	306,803	0
令和4年産米	267,476	267,476	0

● 令和4年産米全量全袋検査とモニタリングの対象地域

